No.74
緑町二丁目にて

この街が好きだから

# 武蔵野スケッチ物語

絵と文・大須賀一雄

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。
そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

この作品は、黄金色に輝く銀杏（いちょう）に魅せられて、緑町の道路沿いで描いたものである。

道路を走る車から漏れてきたギターの調べを耳にした時、何年か前にスケッチ旅行で訪れたスペインでの出来事を思い出した。

それは、スペイン・グラナダにて、スペインにおける最後のイスラム政権の王宮、アルハンブラ宮殿を、同行した生徒と一緒に、高台の公園から写生していた時のことであった。突然一人の男性がギターを抱えてやって来て、私たちの目の前で、「アルハンブラの思い出」を奏で始めた。私たちはその哀愁を帯びた美しい音色に、しばし写生の手を止めて、聴き入ってしまった。

演奏が終わるや否や、私たちは拍手をしながら、男性の足元に置かれた帽子に次々と小銭を投げ入れた。

今振り返ってみると、あの名曲を写生中に聴けたことは、まるで夢のような出来事で、最高の思い出となっている。


**大須賀一雄**
おおすか　かずお

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。